

10月31日に専門機関を交えたヒグマ対策会議を開催し、現時点では利尻島内にヒグマが生息している可能性は、限りなく低い確率であるという結論となりました。

つきましては、結論に至った理由と今後の対応について以下のとおりお知らせいたしますので、今後ご理解・ご協力を、よろしくお願いいたします。

○結論に至った理由について

- ・ヒグマ上陸の目的は交尾期におけるメスの探索であり、メスの存在が確認できない時点で本土へ戻った可能性が高い。
- ・痕跡のない状況が3ヶ月以上続いており、100%とは言えないが、限りなく100%に近い99.9%の確率で利尻島にはいないと思われる。
- ・崖から落ちる等により死んでいる可能性も合わせ、利尻島内で生存している可能性は限りなく低い。
- ・9月はまだ食べるものがあり山の高いところで生息していたとしても、冬眠へ向け準備を始める10月以降になっても下に降りて来ていない。
- ・歩きやすい道や臭いが残っている等同じところを移動する傾向があるが、カメラにその後1度も映っていない。

○今後の対応

- ・島内にヒグマが100%いないとは断言できないことから収束宣言はできませんが、週3回行っていた行動監視パトロールを休止し、警戒態勢を一時的に解除します。（なお、痕跡等が発見された場合は、速やかに警戒態勢に戻します。）
- ・監視カメラによる行動監視は、積雪期までは継続して実施します。
- ・来年の雪解け時となる5月頃までに新たな痕跡等の発見がなければ、島内にヒグマは100%いないと断言できるのではないかと専門機関は話しておりますので、その時が来ましたらあらためてご報告いたします。

○町民のみなさまへお願いしたいこと

- ・まだヒグマが100%いないと断言できないことから、生ごみの取扱等、護身について継続して下さい。
- ・積雪時は足あとが残りやすいことから、歩くスキーやバックカントリー等で山に入る機会のある方はその都度チェックしていただくとともに、足あと等痕跡と思われるものを発見した場合は、役場総務課（82-1112）または警察駐在所（鴛泊 82-2110、鬼脇 83-1004）までご連絡ください。（可能な場合は位置情報や画像を提供していただけると助かります。）